中山青礼　捨児ー竹内寿風　噫八甲田山ー岩崎竜風　吉野落ー本橋錦颯　潯陽江(上)ー野口嶮水　同(下)ー福島脹水　城山ー大関英子　滝口入道ー高田瑩水　筑摩川ー杉山雅俊　実盛ー山下晴楓。

各流派琵琶合同秋季演奏大会

十一月十四日(日)昼京都東山仁王門の本妙寺本堂で始めての試みとして京都琵琶協会と錦心流一水会京都支部の共催で開催された。

いつもの常連のほか天候不良で行楽の足をうばわれた聴客などがどっと詰めかけて静聴し広い会場も満員に近い盛況で薩摩、錦心流、筑前各流派琵琶の妙味を満喫していた。

（演奏者と曲目）牧南水ー西郷隆盛　山岡旭清ー乃木将軍　田中歉水ー厳流島　植村寞水ー茨木　荒木旭嬢ー石田三成　田中鵬水ー常陸丸　平井春嶺ー吉野落(二)　梅原旭濤ー伽羅の兜　馬場鴨水ー紅葉狩　木下皇水ー竜の口　早川幾水ー本能寺　矢吹旭美津ー井伊大老。

このあと関係者一堂に集り乾盃、散会した。

薩摩琵琶鶴彦会秋季演奏大会

十一月二十八日(日)昼、主催小野鶴彦氏。会員の外関口竜城、吉田旭明、山本鶴声の三氏ゲスト出演　（次号詳報）

薩筑琵琶三つ和会演奏会

十一月二十八日(日)昼京都東山安井金比羅会館。　（次号詳報）

高橋蘇水氏函館市文化賞受賞

六十年間琵琶詩吟の普及振興に貢献し志想善導に寄与した功蹟により十一月三日市民会館に於て賞状と賞金十万円、副賞ブロンズ像が市長から贈られた。全琵琶詩吟人の名に於てお祝い申し上げる。

琵琶ラヂオ放送

一、十月十八日(月)午後八時NHK第一ラヂオ、平曲「扇の的」井野川幸次氏外二人。

一、十月二十一日(木)午後五時NHK・FM、「川中島懐古」平山真佐子女史。

一、十月二十四日(日)午後二時NHKラヂオ「邦楽鑑賞会〝琵琶をきく〟」金田一春彦氏解説。経正ー田中旭嶺、壇の浦ー鶴田錦史、曲垣平九郎ー故水藤錦穣。（録音）

松本旭柳女史十月十五日朝心不全のため急逝、享年七十四。大正八年伊識旭風、高田旭邦両師に師事し戦後橘旭宗々家の指導を受け多数の子弟を育成し法一院大師範として橘会の重鎮であった。謹んで哀悼す。

小山田賞水氏　十月二十三日心不全のため急逝、享年七十五。大正七年榎本芝水師に師事し弾法を永井鶴嶺師につき奥儀を極め錦心流一水会々長として二十年間に亘り全国数十支部の運営に当り今日に至った温厚懇実の君子でその功蹟は大きい。謹んで哀悼す。

（予告）

○…山崎旭萃一門温習会　十二月三日(金)昼高槻ボーリング場二階ホール。（非公開）

○…京都琵琶協会十二月茶話会　十二月五日(日)午後一時会員古谷竟水氏宅（向日市寺戸町二枚田四、電話（〇七五）九二一ー七八九四番。阪急東向日町駅下車すぐ。）

○…各流派合同義士祭演奏会　十二月十二日(日)正午京都東山松原安井金比羅宮会館。主催京都琵琶協会。

あとがき

今年もあと一ケ月で終らんとし又一ツ齢を重ねると思うと有難いやら淋しいやらで勿体ない話だが老齢の筆者など変な気持ちに捕われる●こんなことではどもならん、来年は大いに若返って若い人達に負けぬよう頑張ろう●琵琶も年を追って復興しつゝあるのは嬉しいが戦前の事を思うと未だ未だで前途遠しの感を抱かざるを得ない●今日の急務は若い人の育成にあり伝統芸能の首位にあるべき琵琶楽を何としても絶やさぬようにしなければならぬ●それには昔のように国文学を重視しない現代の教育では今の琵琶歌詞の文語体やカケ言葉など何を云っているのか解らぬという若い人が多い●この意味に於て近時漸く着目されかけた現代語の琵琶歌を新作することも発展策の一つの方法として重要ではあるまいか、世の識者の協力を仰ぎたいものである●本号は秋の好季に各地で催された演奏会やその他悲喜交々の報道が山積して貴重な二、三の御寄稿が載せられなかった、執筆者の御好意に反したことを深くお詫する●例年の通り正月号の年賀交礼の御申込みを精々沢山且つお早く御願い申上げる、これによって絃友同好者相互の健康を祝し合いたい、なお郵便の値上りで「謹賀新年」の葉書はこれで事足れりと解釈して省略したいと思う●どうぞよいお年をお迎え下さい。

昭和五十一年十二月一日発行（非売品）
編集者　植村寞水
発行所　京絃社
〒569　高槻市津之江北町一一ノ二三
電話　〇七二六（七三）六〇五一番

琵琶機関紙　京絃　第二七〇号　京絃社

薩摩琵琶とその周辺（一〇）

海軍兵力の進展＝完全戦闘というもの＝日露第一期海戦＝広瀬少佐の死＝敗戦と銅像の行方

東京　坂本錦道

資源乏しく著るしく文化の立ちおくれた日本が、明治の脚光を浴びて文明国の仲間入りをしたと云うものゝ、それは外見の形ちばかりのもので、正確にいって欧米各国より百年も遅れてスタートを切った。今の言葉でいうと発展途上国に外ならなかった。

明治五年、新政府の中に海軍省が独立した。当時の海軍兵力は甲鉄艦二、鉄骨と木造の併合艦一、木造艦一二とその総排水量一八、八〇〇トンであったが、その後星霜移り七十年を経過して昭和十七年に於ては、鋼鉄艦二五〇、総排水量百万トンを遙かに上廻るという大海軍に飛躍したことは驚異的発展であった。

また海戦の跡を顧みても黄海の海戦、威海衛の水雷戦、日露第一期諸海戦、旅順艦隊の撃滅、最後に日本海の大海戦である。名提督としては、遡って伊東祐亨、上村彦之丞、東郷平八郎と、その声名は世界が之を認め、また日本の誇りであり、彼等は傲らず常に自ら足らざるを他に学び、それが世界屈指の大海軍を造り出す素地となった。

世界有史以来二千数百年、何百回と海戦の歴史があるが、あのトラファルガーの海戦で大勝利を博した英艦隊ネルソン提督の軍略をもってしても完全戦闘とは云い難い、敵艦隊の三分の一を遁走せしめてしまった。然しその海戦の歴史中に完全戦闘というものは只の一回だけである。それは明治三十八年五月二十八日午前九時四十分、さしものバルチック艦隊が軍艦旗を下して降伏の旗を掲揚し、東郷の軍法に撃滅された完全戦闘である。云うなれば完全戦闘とは勝者の無疵を指す。東郷側は敵に撃たれて沈んだものは一隻もなく、当日は荒天のため激浪に呑まれた百トン未満の水雷艇三隻程度のものであった。

これより先明治三十七年二月五日、日露両国は遂に国交断絶し直ちに兵火の間にまみゆるに至った、早くも八日には仁川港外に於て日露両艦隊の初手合せである。その第一報は露艦コーレツ、ワリヤーグ、汽船スンガリの三隻を爆沈せしめ、一挙韓国海上の制海権を収めた瓜生艦隊の偉功を報じた。続いて二報として東郷司令長官は爾後の艦隊を率い、旅順港外に於て敵の主力を圧迫し、砲台掩護の猛烈な砲火を冒して八日夜半水雷艇の強襲を敢行、一等戦艦レトウインサ、ツエザレウイッチ外駆逐艦一隻を全く航行不能とし、翌九日の昼戦は堂々たる正攻法を以て、司令官スタルク中将の旗艦ペトロパウルスリ外巡洋艦三隻を瀕死の窮状に陥し入れた。

これまでの海戦に脆くも敗北を喫したロシア司令官スタルクは直ちに罷免、本国召還となって新たに着任した新提督マカロフ中将は、陸上砲台を増築探海灯を増置、海上に無数の水雷を布設警戒おさおさ厳重を極めた。

さて、こゝで旅順口の閉塞が始まる。厳谷小波作「広瀬中佐」の登場である。琵琶歌としては長尺物でなく比較的短篇として、今日に於てもよく弾奏される曲目である。

そもそも旅順港は軍艦三十隻を入れる良港で、港口の全幅は二七三メートル、巨艦の出入口は九〇メートルである。其処を狙って汽船を爆沈し、旅順艦隊を玆に蟄伏せしめんとする計画である。第一次閉塞隊の決死隊を募ると立ちどころに二千名以上が応募した、東郷長官は生還の困難を慮って六十七名を厳選した。この快挙は敵の激烈なる砲火に遮ぎられて左程の効果を挙げ得ず、更に第二、第三

次と続行するが、第三次に至り決死隊出願者は一万人に達し、血書の応募も多数あった。

第二次閉塞の決行は三月二十七日、この時の決死隊員六十五名。千代丸、福井丸、弥彦丸、米山丸の四隻に分乗して再び旅順港口に突入。計らざりき世人を驚愕せしめたる一大惨劇が福井丸とその端艇に起った。

その惨劇は広瀬少佐を指揮官とする福井丸に起ったのである。警戒厳重なる軍港の陸上砲台よりの猛撃、探灯光下に何等の武装なき商船を露出して目的点に達し、一同無事ボートに乗り移ったのであるが、少佐がふと見ると、あゝ股肱の勇士杉野兵曹長の姿が見えぬ、再び福井丸に引返しつゝ「杉野!!、杉野!!」と連呼しつゝ少佐は船内を駈け廻り捜索したが杉野の影も形もなく、斯く船内を探し求める事三回、呼べど叫べど波浪高く舷を嚙む潮風の怒号のみ。少佐は或いは行違いに杉野はボートに乗り移ったのではないかとボートに引返した、然しそこにも杉野の姿はない。その筈である、さきに杉野は爆薬を携行して船艙に下りて行ったその刹那、敵の駆逐艦より発射した魚雷は福井丸に命中、轟然と爆発してその身は粉砕され憐れ悲惨な死を遂げたのである。あゝ英雄いづくんぞ涙なからん。

さてボートに乗り移った少佐は、海図を手に艇尾右舷に腰打ち掛け「杉野は惜しいことをした、実に残念!!」と嘆声をもらし、転た哀惜の情堪えざる折しも、無惨なるかな巨弾一発轟然飛来、少佐の頭部を粉砕し尽くし、その頸部以下の体軀を激浪の中に跳ね飛ばした、見れば艇中には二銭銅貨大の一片の肉塊と鮮血したゝる海図を残すのみであった。

中佐は豊後竹田の人、文武共に秀で夙に軍艦朝日の分隊長として令名あり、部下皆敬附してその高風を慕う。中佐の訃報とその一片の肉塊を東京に移し、霊柩青山墓地に向うや沿道の拝送者雲の如く、みな涕泣嗚咽、首を低く垂れ敢えてその柩を見る能わずと当時の新聞は報じた。

曾って神田万世橋畔に屹立せる軍神広瀬中佐と、その真下に上方を見上ぐる杉野兵曹長の銅像、行人深々と頭を垂れた。その尊崇の銅像も昭和敗戦の悲しむべき事柄……。昭和二十二年十一月警視総監の撤去命令によって、ある土木会社が請負って何処ともなく運び去られ、その後この会社も倒産し銅像の行方も判らない。悲しむべし護国の鬼と化した中佐と兵曹長に全く申訳もないことである。

（附記）伊藤正徳氏の世界海軍史に関する遺著は旧海軍部内に於ても重きをなし、且つ海軍評論家として世界的に声名の高かった人（時事新報主筆、社長を歴任。当時私は工場長として上司）屢々先生の警咳に接する機会あり、その都度東郷さんや海戦の高説を拝聴し、それを私はメモに記したものや先生の遺著「大海軍を想う」を参考にした。

（以下次号）

明年一月一日発行の本紙は例年の通り正月特別号とし紙数を増して内容豊富の記事を満載、併せて新年交礼号として貴名を掲載させて頂きたいと存じます。

新年特別号発行について

遠隔地同好者間の旧交を温ため、且つは京紘援助の思召しをも含めて多数御協賛下されたく、別紙申込用紙に料金を添え十二月十日迄に御申込み願上げます。

我が道を行く

六十五年（四四）

西郷天風

この展覧会の詳細は当時の雑誌「中央美術」に報道されており、出品者のなかには本郷研究所や川端画学校などの先輩が幾人か見られたが、私は只裸婦のデッサン（これは洋画研修の基本）に夢中で、それと映画出演の時間に追われながらのことで、余り友人つき合はなかった故に数十のテーブルは何れも四、五人の仲間で賑やかな中に、私のテーブルだけは私一人を残して他の三人は他の仲間のテーブルに走って行き、その淋しさも亦忘れられぬ思い出の一つとなった。

元来私と云う人間は、生れつき人様に容れられぬ性格らしく、小学生の頃から学友数人の集まりに近づけば、折角円陣を張り談笑に耽りおる連中の態度が急に革まってしまう。併し物事に無頓着できらわれている訳でもなく、迷惑な存在とも思われていなかった。

そうした状態は老境に達した近年に至っても変りがないことは、画友や紘友の間でも同様だが、殊に紘友の間ではそれが甚だしく思われ、結局は一匹狼にならざるを得ぬ立場となってしまった。あれは昭和年代になってからのこと、私が九州に滞在中結成された琵琶楽協会などでは、帰京を待っていた幹部の紘友（これはさる和楽評論家による「日本音楽鑑賞の手引」と題するビクターレコードに共々起用された筑前琵琶の名手）が、今度出来た琵琶楽協会から君を迎える話がある筈だから、かってのいざこざは水に流して素直に受入れるようとのした話があった。そのいざこざなど全然覚えのないことだが、それきり何の話もない儘それとなくその大幹部を訪問すること前后五回、しかし結果は案にたがわず協会のことには一さい触れない、そこでこちらから話を切出して見れば大幹部どの曰く。君を遇する椅子がないので……とか、或いは小使役で推せんする資格がないからなぞと逃げられ、そのまゝ今日に至っておる次第で、これも不徳の致すところと自省するのみ。

閑話休題

さて、文部省主催の官展に対する民間側の代表的存在である「中央美術展」に入選した私は大いに自信を昂め、かねて松竹キネマ北海道支社の副支社長太田益茂氏よりの招請に応じ、東京を出発したのが大正十二年の七月で、彼の関東大震災の二ケ月前だった。

その時の気持では、夏の暑い間を北海道で琵琶のかたわら画の勉強が出来るとは何たる幸運に恵まれた事かと、小踊りせんばかりに喜び一路札幌に急行した。

北海道には函館、小樽、札幌、旭川の四大都市があり、何れにも錦座と称する大劇場が娯楽の殿堂然と聳えておる。松竹キネマでは此の四大劇場を一手に収めて北海道支社を置き、この広大な地域に君臨したのが大正十二年春。小島克雄が支社長となり、副支社長に迎えられたのが太田益茂氏で、そのため私は洵に気儘な日常を楽しく送ることが出来た。

勿論、北海道でも琵琶劇は大好評で、小樽、札幌、旭川と、二週間位ずつ巡演すること約二ケ月、そろそろ帰京の準備をと、札幌へ戻って錦座に入り、久し振りで洋画を楽しんでおると、突然映写は中止され電光輝くステージの中央に佇んだ辨士が、挨拶もそこそこに語り出した言葉は―

〃只今到着した鉄道乗務員の報告によれば、東京周辺に何か重大な天災地変が起こり、東京全域は大混乱に落入っておる由、未だ詳細は判然しませんが取敢えずお知らせ致します〃之が九月一日の夜だった。

これを聞くや客席は、無気味な程静まり返って人無きが如く、それまでの騒々しさは消去ってしまった。

翌朝はいち早く新聞号外などで刻々と報道される東京大震災の悲惨事に、巷は一時火の消たような静けさとなった。

私は急遽帰京せんものと、駅に走る事数十回、併し東京方面行きの切符は道庁長官の命令で中止され、やがて〃調査団編成中によりその結果が判るまでは東京方面行の総ての輸送禁止の特令〃が掲示され、帰京の道は断たれてしまった。そうこうする内、九死に一生を得た人達の一団第一号が北海道にやって来た、いづれも気のぬけた様な面持ちの顔にホッとした安心感をうかがわせながら災害の恐ろしさを物語るのであった。

やがて見るも無惨な写真展等が催される頃、松竹キネマ支社では思いもよらぬ事態に当面した、次々に送り込まれる洋画フイルムに大切な説明台本が付いていないので、急いで台本を作る必要に迫られたのである。当時はまだトーキー時代には至らず、辨士が台本によって映画の説明に当る時代だった。そこでまづ北海道大学から語学に堪能な学生数人の応援を頼み、米国各社から届いたフイルムを試写しながらタイトルの処を止めて英文を書写することや、それを和訳する事等を受持ってもらい、それを台本用に清書する役を私達が引受けた訳だが、困った事に和訳のベテランである学生達にも手におえぬものがあった。

大阪夏の陣（四）

―外れた思惑―

山川流水

近鉄郡山駅から数分で郡山城跡に入る。幕末最後の藩主、柳沢家をまつる柳沢神社の緑濃い境内の裏手に天主台跡の石垣がある。

その北側に「さかさま地蔵尊」と立て札が出て蠟燭のあかり、線香の煙が上がる。ご本尊さまは石垣に組み込まれ、外側に露出しているのは地蔵の台座の裏。そのすき間からのぞくと、地蔵さんは頭が少し下がっていて、確かに「さかさま地蔵」である。この横にも、よだれ掛けつけたお地蔵さんが、いくつもいくつも石垣に不揃いに組まれている。

天正十一年（一五六三）当時の領主、筒井順慶が天主閣築造のとき、城石が不足して奈良かいわいの野仏や墓石まで集めて野積みした石垣と伝え、これなら仏さま各種取揃えて、諸願成就疑いなしというところ。

「大日本史料」があげる諸文献で大阪方の郡山襲撃をまとめる。

慶長五年（一六〇〇）の関ケ原合戦ののち、大和一帯は殆ど徳川直轄の代官に治めさせていたが、大阪の風雲が急をはらんだ十九年、家康は一たん領土を没収した筒井家の子孫を捜した。大和で浪人暮らしをしていた順慶ゆかりの筒井主殿頭定慶を漸く見つけ出すと、一万石で郡山の城番に起用した。これが筒井隼人正である。

家康のねらいは、大和一帯で郷士、浪人をしている筒井家の旧臣達が、太閤恩顧の頃を思い出して大阪の浪人募集に応じるのを防ぐ一方、彼等を再興筒井家にまとめて大阪攻撃に活用しようと考えたのである。

処が家康の思惑は外れて、大和浪人部隊は大阪城内の一勢力となっていた。

大阪城に入城していた筒井家の旧臣箸尾宮内、万財備前、布施太郎左衛門らは元和元年（一六一五）四月十五日、大野主馬治房の命令で、郡山の定慶に「大阪方に味方すれば恩賞が出る。敵に加担するならば、筒井の旧臣を先頭に大阪の大軍で攻めつぶす」と申し入れた。定慶は「親父順慶は太閤恩顧かも知らぬが、自分は徳川の恩を受けている」と、交渉は決裂した。

主殿頭の弟紀伊守政行が「昔の家来が攻めて来るならばこちらも領内の浪人野武士をかり集め、くらがり峠で迎撃すれば旧知同志のこと、大阪方の連中は味方につくであろう」と提案したが、主殿守は「それは駄目だ、敵は大軍で来るに違いない。昔仲間だけに味方の浪人達が敵に寝返りするおそれがある。籠城して戦う内に近隣の領主が援軍を出してくれる」と反対し、領内の商人農民までかり出して、約千人で十六日から二十日まで籠城したが攻めて来ないため、守備隊は解散した。

処が二十六日、箸尾宮内を大将とし、大和浪人を主力に大野治房の部下も加わって二千余人の部隊が、くらがり峠を徹夜行軍で押し寄せた。油断していた筒井方は、峠から続くたいまつの列を見て周章狼狽、味方の斥候は「敵は約三万」と報告する。これはたまらぬと主殿頭は逃亡、弟紀伊守は城を枕に戦うことを主張したが従う者が居らぬため、これも退散した。

大阪方は攻め込んだが城兵は藻抜けの殻、城内や町々に放火して引上げる。別動隊が今井町（今の橿原市）を回って法隆寺近くまで押寄せ、中井大和守正清の宅を焼き払って引き上げた。

中井正清は秀吉に寵愛されたのに、冬の陣では家康に取り入って大阪城攻撃の陣地構築に働き、近畿地方の大工頭に昇進した。

主殿頭は大阪落城殿の五月十日切腹、二十八才、紀伊守も十二日割腹自殺、二十五才。

郡山城を預かった主殿頭は、領民に年貢、諸役などで悪政をしたので、領民の恨みをかっていた。加えて郷士、野武士になっていた旧臣達が主殿頭の政策を批判、大阪城入りをしたとも解せられる、と「大和郡山市史」は述べている。

「慶長見聞書」は、筒井主殿頭は「常に百姓に荒くあたり候間、土民一揆（いつき）を起こし、敵軍に一味いたし候て、主馬の人数を引き入れ云々」主殿頭を攻めた、とある。

大阪合戦にからむ農民一揆は郡山ばかりではなかった。冬の陣さ中の前年十二月には、熊野、新宮地方（和歌山県）で郷士らが先頭に三千余人が一揆を起こして、浅野長晨の出城―新宮城を攻めて城代戸田勝直を苦しめ、有田、日高地方でも一揆が起き、長晨は大阪城包囲陣から二千の兵を派遣鎮圧している。夏の陣でも四月末に再び有田、日高、名草地方で暴動が起き、浅野藩は二面作戦を強いられているが、これらの一揆暴動は大阪方の呼びかけに呼応したもので、これらの背景には体制に不満を持つ指導者が、地方には少なくなかったとも見ることが出来よう。

大阪方の後方惑乱戦術にかかって一揆、暴動を起こす農村に、東軍も手を焼き村々から人質を一人ずつ出させることにした。福原、須磨など西神戸の各地からも三月九日に人質を取り、大阪落城後の五月十一日に之を釈放したことが記録にも残っている。（末完）

木犀の香

滝原流石

山の温泉に銀河を白く身を沈む
月に白くこぼるる萩の音もなく
巨き星流れて天（そら）に残る沈黙（もだ）
木犀の香に追憶の夢若く
木犀の香に解けやすき半跏趺坐
追憶の琵琶に幻影あり秋灯

武紘会・一水会多摩支部合同研修会

①九月十九日(日)昼一時小金井市福祉会館。舟弁慶―高杉洲靖　月下の陣―吉田治雄　夢―石井效水　本能寺―伊藤磐水　茨木―中村修水　井伊大老―村木桜柳　石童丸―坂井眺水　城山―清水源城　花紅葉―伊集院皷城　敦盛―坂本錦道。以上研修六時閉会。

②十月二十四日(日)昼一時同会館。金剛石―伊藤繁茂　棄児―高杉洲靖　坂崎出羽守―加藤錦陽　吹雪の敵―篠宮穣水　伊豆の御難―中村修水　夢―石井效水　雪晴れ―伊藤磐水　竜の口―菊地甘水　城山―清水源城。六時閉会。

なかよし市民まつり

十月八日(金)夕五時小金井市公会堂、主催同実行委員会。白虎隊―小山羽水　城山―石井效水　伊豆の御難―中村修水　本能寺―伊藤磐水　小敦盛―坂本錦道　舟弁慶―高杉洲靖。以上の外郷土芸能、獅子舞、謡曲、仕舞、詩吟剣舞、民謡、箏曲等が十一日迄の四日間に亘り催され市民を喜ばせた。

石橋旭嶺氏大阪南御堂会館に出演

十月十三日(水)近畿公衆電話応対コンクール大会に石橋氏本能寺の一曲を特別出演し多大の感銘を与えた。

岡本扇水記念演奏会

十月十七日(日)朝十時高崎医療センターホール、主催錦扇会。会主扇水女史琵琶五十周年記念と会員の昇伝披露を兼ね東京その他のゲストを迎えて開催盛会であった。城山―三人、桜狩―十二人・大正琴岡本扇水　坂崎出羽守―力石覚水　菅公―鈴木紅水　白虎隊―反町昇水　巌流島―吉田竜水　静―宮内玲水　川中島―上村、馬場　橘大隊長―下田瑱水　西郷隆盛―新井潼水　姫百合の塔―八人　蟬丸―片柳舞水　石童丸―原田刀水　めぐる扇水　ひとすじに―十一人　吹雪の敵―河合桃水　五條橋―井上瑠水、落合白水　道成寺―大井錦淀　捨子―四人　安達ケ原―中村錦道　新撰組―藤川晴水　井伊大老―野崎星水　羅生門―荒井藍水外三人　屋島の誉―会主岡本扇水　小督―荻野甲水　舟弁慶―山口速水。外に詩吟五題。

筑前琵琶旭会全国大会

十月二十三、四の両日午前十一時から門司市文化会館に於て小倉旭会司会の許に演奏会開催。関東、関西、中国、北陸、山陰、四国、九州各地の精鋭約百名が独演或は合奏の八十曲を披露し旭会の妙味を遺憾なく発揮して盛況裡に幕を閉じ第三日の二十五日は総会のあと赤間神宮その他の史蹟を訪ね懇親会後散会、本年の一大行事を終った。

筑前琵琶橘会全国大会

十月二十三、四の両日井伊大老の旧城下彦根市民会館。第一日―総会のあと彦根城、多賀大社などを見学して懇親会。第二日―朝九

時四十分演奏会開始、地元彦根市を始め関東、中京、関西、山陽、山陰、北陸、四国、九州各地橘会選抜の秀技者男女約六十人が独奏、合奏三十七曲を競演して満堂を唸らせ夕六時半成功裡に本年の一大行事を終了した。尚来年の全国大会は十月戸畑市で開催が決定した。

鉦水会第十六回演奏大会

十月二十四日(日)昼逗子市立図書館ホール、主管鉦水会、主催市教育委員会・市文化教会。金剛石ー会員　菅公ー小松、大越　霧の川中島ー大越　桜狩ー佐藤　月下の陣ー樋口　七卿落ー今　河内の宿ー加藤　重衡ー佐々木　黒田武士ー有野新水　屋島の誉ー田中法水　白虎隊ー坂井田緋水　城山ー内藤治水　紅葉狩ー大久保誘水　石童丸ー坂井田政水　夢ー姉崎証水　川中島ー樋口精水　五條橋ー本庄宵水　大高源吾ー三門葉水　琵琶塚ー会主平野鉦水　山科の別れー高橋旺水　石橋山ー伊集院牙城　（以下賛助）雪晴れー森斧水　竜の口ー今井城水　小栗栖ー榎本山水　横笛ー広瀬双翠、小林政水、石井帯水　木村重成ー鈴木謙水　羅生門ー斉藤姝水　巌流島ー秋山錦賜　本能寺ー山田幻水　夜討曽我ー藤川晴水、高橋狸水、松本孝水、鈴木琢水　井伊大老ー梅沢峒水　西郷隆盛ー中谷襄水　曽我ー小山田賞水。外に詩吟詩舞三題。

三位研修同志会十月例会

十月二十四日(日)昼三鷹市上連雀公会堂。（録音）小野訓導ー喜多村一城　滝口恋慕篇ー坂本錦道　桜ー柏木篁道　鉢の木ー伊集院皷城　坂本竜馬ー中村晃憲　城山ー清水源城　夢ー関口竜城　菅公ー八束一峰　竜の口ー高杉洲靖　彰義隊ー井合松映　台湾入ー西村暠峻。当日雨天にも不拘出席多数で盛会。

日本音楽の流れ

十月二十九日(金)夕六時・三十日(土)昼二時東京国立劇場（開場十周年記念公演。二千二百円）。楽琵琶ー宮内庁楽部　荒神琵琶ー小川行舜　地神琵琶ー福貴島順海　平家琵琶宇治川ー井野川幸次　同祇園精舎ー館山甲午　肥後琵琶菊地くづれ、六根はらいー山鹿良之　同荒神はらい、都合戦筑紫くだりー田中藤後　薩摩琵琶正派弾法ー辻靖剛・遠藤鶴東・清川嵐舟　同城山ー宇川久信　同彰義隊ー須田誠舟　錦心流竜の口ー小山田賞水　錦琵琶時雨曽我ー藤波桜華　筑前琵琶湖水渡りー押田旭窈　同伽羅の兜ー柴田旭堂　現代の琵琶楽三面の琵琶のための一旅ー鶴田錦史　同レスポンズー山田美喜子・半田綾子・打楽器田村拓男・黒坂昇。

第三二一回三越名人会

十月三十日(土)夕四時東京日本橋三越劇場。（二千円）筑前琵琶坂本竜馬ー押田旭窈女史の外混声合唱、落語、長唄、端唄、講談、舞踊等各一流人の出演で盛会であった。

第十五回琵琶と詩吟詩舞の会

十月三十一日(日)昼西宮市立夙川公民館松下ホール、主唱市教育委員会、主催西宮琵琶詩吟同好会。青葉の笛ー高原　吉野山懐古ー田中、木の宮　城山ー吉田　湖水乗切ー堀田、村上、山下　会津白虎隊ー川上琵水　戦艦大和ー田村魁水、楊嶽水　巴の前ー吉山瞳水、山崎蘭水　重衡ー反町紫水　勧進帳ー新潟樋口禁水　新撰組ー札幌二反田岳水　琵琶舞屋島回顧ー会主三浦蓮水・原義人　巌流島ー大阪小川吟水　政岡ー三浦蓮水　厳島の戦ー大阪山崎旭萃。外に詩吟詩舞二十一題。

第四回琵琶演奏大会

十月三十一日(日)昼立川市中央公民館、主催立川市・市教育委員会・市文化連盟、主管立川市琵琶研究会。高松城ー小山羽水　母常盤ー水原、水藤五郎　坂崎出羽守ー加藤錦陽　本能寺ー石黒錦歌　雪晴れー伊藤磐水　城山ー清水源城　姫百合の塔ー栗原雨竹　井伊大老ー村木桜柳　伊豆の御難ー中村修水　松の廊下(下)ー小川吐水　石童丸ー坂井眺水　（以下来賓演奏）扇の的ー広瀬翠紅　大高源吾ー水藤五郎　新撰組ー木原綾子。

柴田旭堂リサイタル

十一月一日(月)夕大阪今橋大阪屋証券ホール（二千円）。猿蟹合戦ー高橋　四絃鳥の曲・五絃花の曲ー七人合奏　那須与市ー会主柴田旭堂　大石主税ー四人　耳なし芳一ー会主柴田旭堂　秋風故郷山ー五人・立方一二〇三高地ー大篠旭晶　大楠公ー高千穂旭楓　湖水渡ー東大阪桝本旭風　羅生門ー東京藤巻旭鴻。盛会。

赤心流琵琶大会

十一月三日(水)朝十時静岡市の県婦人会館、主催赤心流鶴翁氏。中秋文化の日にふさわしい快適な気候で一天澄み渡った青空は遙かに富士の霊峰がその全容をクッキリと現わし真の演奏会日和で満員に近い聴衆は伝統琵琶、詩吟の妙味を満喫した。赤心会歌ー鶴峰　金剛石ー松本鶴鈴　菅公ー荻野師堂　紅葉狩ー市川鶴峰　（以下来賓演奏）椿姫観音ー浜松柿沢篁峰　泊り舟ー東京福田雅丰　明烏のお吉ー横須賀石井桑水　桜井の駅ー京都田中鵬水　光秀の最期ー同平井春嶺　湖水渡りー同矢吹旭美津　新作小督ー同植村寞水　粟津の露ー同梅原旭濤　戦艦大和ー横浜中谷襄水（以下相談役演奏）大楠公ー小野鶴彦　濤陽江(上)ー岡尾鶴城　同(下)ー会主森鶴翁。外に門人、客員の吟詠二十五題、五時終演。記念撮影に続いて祝宴が開かれ目出度く終了した。

錦心流琵琶演奏会

十一月三日(水)昼近江八幡市中央公民館、主催彩水後援会。小守の唄ー西川　湖水乗切ー岸本港水　坂崎出羽守ー野尻源次郎　戦艦大和ー揚嶽水　山科の別れー桃木耳水　井伊大老ー西川磯水　敦盛・兎と亀ー会主野田彩水（特別出演）曲垣平九郎ー東京木原綾子。外に詩吟、日本舞踊各一題。

錦びわ秋の演奏会

十一月五日(金)昼夜東京渋谷東邦生命ホール。主催錦びわ一門。故新部桜水追悼兼催。幻想濤陽江ー西村錦風　旅の芭蕉ー松井　新撰組江野沢　羽衣ーロナルドマックレーン　曲垣平九郎ー原　城山ー真木　母常盤ー新船　桜狩ー香西、菊地　白虎隊ー有馬　黒田武士ー水原、舞桜州　須磨の敦盛ー小沢錦弥　うつぼ猿ー箕村桜州　花の敦盛ー谷川桜伸　耳なし芳一ー木原綾子　桂ー藤波桜華　井伊大老ー村木桜柳　盛綱先陣ー会主水藤五郎　（録音）扇の的ー故新部桜水　（以下賛助出演）安達ケ原ー西村錦風、三田村錦霞　広瀬中佐ー仲川秀邦　秋の祈りー井上雅翔、河合雅奏、河野雅操　琵琶塚ー鈴木流泉　秋風故郷山ー藤巻旭鴻　晩翠荒城の月ー舞永田咏滉、吟望月啞江　応仁の乱・生けるしるしー山下晴楓　雪の幻想・風の小町ー橋本敏江　春秋譜ー歌四人、絃二人。

錦心流一水会全国大会

十一月五日(金)朝十時から夜八時まで東京銀座ガスホールにて演奏会。本部役員を始め全国三十数支部の選良四十余人が四十三曲を交々熱演して覇を競い盛会裡に終始した。翌六日は朝十時から多摩霊園の永田家墓所にて故宗家錦心師五十回忌墓前祭が斉行され一同師の冥福を祈ったあと田端の料亭花屋大広間に於て総会に続き懇親会が開かれ各地会員間の旧交を暖めた後本年の一大行事を滞りなく終って乾盃散会した。只この大会を目前に控えて小山田会長の急逝はショックで一抹の淋しい雰囲気に包まれたのは残念であった。

秋のおさらい会

十一月七日(日)昼東京新宿洲鳳会館、主催田洲鳳。菅公ー小野寺　城山(上)ー辻、同(下)ー立花　接待ー若林鶴山　本能寺ー三田村錦霞未定ー望月啞江　本能寺ー会主山田洲鳳。外に詩吟二十一、書道吟一、吟舞四、民謡四。

京都琵琶協会十一月茶話会

十一月七日(日)昼本部平井春嶺氏宅。当日は病気、事故などで出席率悪く些か淋しかったが例によって会員数氏研究演奏のあと協議に移り①郵税、電信電話、国鉄などの料金改正に伴い諸物価値上りの折柄今後協会演奏会を他都市にならって最低の有料とすることの可否、②本月下旬兵庫県書写山附近に紅葉狩の一泊温泉旅行、③来月の茶話会は会員古谷氏宅で開催、④その他を附議し附近の料亭で食事を共にして八時散会。出席者＝伊吹正陽、馬場鴨水、田中鵬水、梅原旭濤、矢吹旭美津、牧南水、古谷竟水、木村維水、平井春嶺、植村寞水。

錦心流琵琶秋季演奏大会

十一月十三日(土)昼大阪東区府立婦人会館、主催一水会大阪支部。金剛石ー会員　紅葉狩ー中野　月下の陣ー増田　新曲石童丸ー住田吉野山懐古ー菊地　城山ー北村玄水　竜の口ー中山嬢水　河中島ー金寄靖水　山科の別れー植田豊水　雪晴れー養老駿水　鉢の木(上)ー小西甫水　小栗栖ー宮ノ原聖水　井伊大老ー中西銕水　戦艦大和ー内田欽水　木村重成ー尾山好水　戸隠山ー木村蓮水　伊豆の御難ー中山鳳水　鉢の木(下)ー会主小川吟水　詩吟山行ー桃木耳水　新撰組ー東憲水　（以下来賓）江葉狩ー京都馬場鴨水　巴の前ー神戸三浦蓮水　桶狭間ー東京佐藤采水。

晴風一門例会

十一月十四日(日)夕六時東京杉並区高円寺会館。送別ー藤沢祐人　本能寺ー諸遊清風　白虎隊ー大田尾青桜　旅ー菅野青仙　紅葉狩ー